

第18章 福島県会津少年自然の家

第1節 概要

会津少年自然の家は、恵まれた自然環境の中で、生き生きとした野外活動と集団宿泊生活を体験することにより、心豊かで心身ともに健全な少年の育成を目的として、昭和56年4月に開所された社会教育施設である。年々その利用も増大している現状にあり、生涯学習時代にも対応している。

また、少年自然の家は、学校教育、社会教育、家庭教育がもつそれぞれの教育機能を統合し、効果的に補完するための教育施設であり、次のような教育目標を掲げ、その達成に努めてきた。

教育目標

「心豊かで、自ら生活を創造し実践するたくましい少年を育てる。」

- (1) 自然に親しむ活動を通して、自然の恩恵にふれ、自然を愛する心や敬けんの念を育てる。
- (2) 集団宿泊生活を通して、友愛の心を深め、自律心・協調心を養い、規律を守り、責任を重んじ、進んで奉仕する態度を育てる。
- (3) 野外活動を通して、最後までやりぬく体力と心を育てる。

1 運営委員会

所長の諮問機関である運営委員会の委員は、次のとおりである。

| 氏名 | 役職名 |
|---|--|
| 議長 山口林助 | 会津坂下町長 |
| 副議長 佐藤聡 (平成4年11月24日まで) 宗像精 (平成4年11月25日より) | 福島県市町村教育委員会連絡協議会 常任委員(会津坂下町教育委員会教育長) 福島県市町村教育委員会連絡協議会 常任委員(会津若松市教育委員会教育長) |
| 和田洋子 | 福島県議会議員 |
| 渡部匡延 | 福島県小学校長会(両沼小学校長会会長) (会津坂下町立広瀬小学校長) |
| 初瀬川 昂 | 福島県中学校長会(福島県中学校長会理事) (会津高田町立第一中学校長) |
| 平山恒雄 | 福島県PTA連合会副会長 (会津若松市立第三中学校PTA会長) |
| 櫻井弘二 | 福島県公民館連絡協議会副会長 (会津若松市中央公民館長) |
| 長谷川 四朗 | 福島県子ども会育成会連合会顧問 (社会福祉法人会津児童園長) |
| 照井 蔵人 | 会津美術協会会長(漆芸家) |
| 堺 百人 | 喜多方市子ども会育成会会長(農業) |

運営委員会は次のとおり2回開催する。

- (1) 第1回運営委員会(平成4年7月24日開催)
- (2) 第2回運営委員会(平成5年2月9日開催)

2 平成4年度重点目標と成果

(1) 集団宿泊生活の充実を図る

- ① 利用団体の主体的な活動を推進するため、引率指導者研修会、事前打合せ会及び実施踏査等を通して指導力の向上を図った。また、利用のねらい及び施設の特色や機能を生かし、ゆとりあるプログラムを編成し、充実してしかも自主的・自発的な活動ができるよう指導援助、助言に努めた。
- ② 「利用の手引」や指導資料の見直しと改善に努め、利用団体の活動が効果的にすすめられるよう推進した。
- ③ 所利用のきまりの原則をふまえつつ団体の実態や目的に応じ弾力的な利用を推進して、ゆとりあるしかも自主的・自律的な研修ができるよう援助と指導に努めた。
また、所員と引率指導者との連携を密にして推進してきた。
- ④ 各学校、各種団体の実態や利用のねらいに即して、各種活動についての専門的指導者の活用に努めた。特に冬のスキー実技研修の充実を図ることができた。
- ⑤ 県教育行政機関や市町村教育委員会、公民館、及び小中養護学校等との連携の強化に努め利用の促進を図った。

(2) 施設・設備の充実を図る

- ① 野外活動の充実を図るため、活動コースの点検、整備に努め、利用者が安全に活動できるように努めた。
- ② 年次計画によって、スキー用具の整備並びにスキー台数の確保につとめ、充実したスキー活動が展開できた。
- ③ 室内活動、野外活動の充実を図るため、現有資料の整理と補修にあたりながらすすめた。また、クラフト(ペーパークラフト、レーザークラフト)の工夫、ペタンク等の室内活動の充実を図った。UFOゴルフも人気がでて好評を得た。
- ④ 活動コース周辺及び活動エリア内の植物への関心、自然への関心を深めてもらうための説明札を整備、設置し、利用者から好評を得ている。また、運動広場西斜面に「見はらし台」を設置し、会津盆地がながめられるように整備を図った。

(3) 広報活動の充実

- ① 利用の促進拡大を図るために、所報、利用申込要項広報ちらし及び主催業案内等を関係機関、団体に配付し、施設への関心を高め理解と協力が得られるよう努めた。
- ② 利用団体の事前施設見学、実地踏査、利用相談等を奨励し、施設への理解と関心を高めるよう努めた。

(4) 主催事業の効果的運営を図る

- ① 当施設を利用する学校団体及び社会教育団体の指導者を対象に効果的な施設の利用と充実した活動ができるよ